

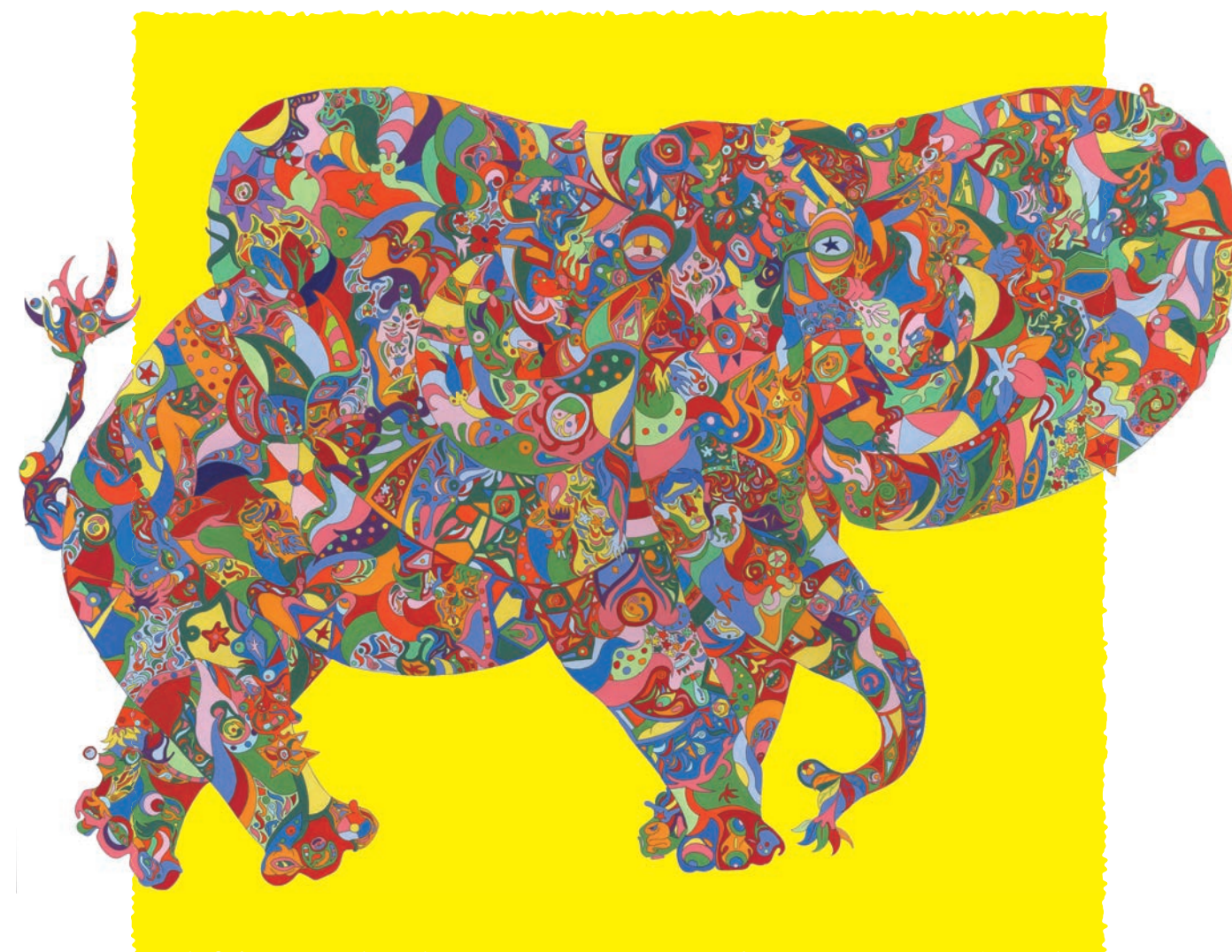
平成30年度（2018年度）事業報告

年 報

こころの樹

tv asahi welfare foundation

テレビ朝日福祉文化事業団



社会福祉法人 テレビ朝日 福祉文化事業団

はじめに

テレビ朝日福祉文化事業団は、昭和52年（1977年）にテレビ朝日が母体となって、民間放送系ではじめての社会福祉法人として設立され、「児童福祉」「母子福祉」「障がい者福祉」「高齢者福祉」など、時代の要請に対応しながら社会福祉事業に取り組んできました。これまでご支援してくださった皆さまに、厚く感謝を申し上げます。

子どもを取り巻く問題に関心が向けられている中で、次の時代を担う子どもたちの育成に少しでも貢献できるよう、当事業団ではいろいろな児童福祉事業を行っています。「高校生の海外生活体験の旅」や「農村ホームステイ体験の旅」「子どもキラット!楽演祭」など、児童養護施設で生活する子どもたちのための事業を、これからも継続していきたいと思いをします。

母子福祉では、母子生活支援施設で生活している親子を対象として、テレビ局を身近に感じて、楽しい一日を過ごしてもらうことを目的に「テレビ朝日見学体験ツアー」を開催しています。外出する機会が少なくなりがちなお母さんと子どもたちに、たいへん喜んでいただきました。

障がい者福祉では、創立当初からハンディスキー（障がい者スキー）や車いすバスケットボールに関わり、第1回から主催者として名を連ねています。また、「五感で楽しむ音楽会」では、視覚や聴覚に障がいを持つ方も音楽を楽しめるような工夫を凝らし、大ホールがほぼ満席となる900名以上のお客様にご来場いただきました。

さらに今年度から、障がい者のアートの分野への支援も開始し、中野の商店街一帯を美術館に見立てたイベント「NAKANO街中まるごと美術館!」に助成をいたしました。

高齢者福祉では、プロ歌手の方々を高齢者施設にお連れし歌謡ショーをお届けする「高齢者施設訪問」が主体となってきましたが、今年度から「DJ OSSHY ディスコショー」を開始しました。1970～80年代の懐かしのヒットソングに合わせて身体を動かし、笑顔あふれるひと時を過ごしていただきました。

テレビ朝日福祉文化事業団は、「共生～隔たりのない世界～」を願って、皆さまとともに「こころ」を一つにして、テレビ局の特性を生かしながら、さまざまな社会福祉事業を推進してまいります。

今後とも、皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

社会福祉法人 テレビ朝日福祉文化事業団

社会福祉法人 テレビ朝日福祉文化事業団は、昭和52年（1977年）NETからテレビ朝日への社名変更を機に、より幅広い社会福祉活動を目指して設立されました。昭和26年（1951年）制定の社会福祉事業法〔平成12年（2000年）社会福祉法に法名改正〕に基づき、社会福祉の増進を図ることを目的として、第二種社会福祉事業を行う社会福祉法人として申請・認可されたものです。

Contents

● 児童福祉	2～11
● 母子福祉	12～13
● 障がい者福祉	14～22
● 高齢者福祉	23～25
● その他の福祉	26～27
● 平成30年度事業一覧	28
● 平成30年度会計報告	29～30
● その他	31～33

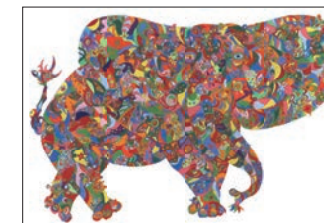
略語解説

(福).....社会福祉法人	(一社).....一般社団法人	(社)..... 社団法人
(特非).....特定非営利活動法人	(公財).....公益財団法人	(財)..... 財団法人
(公社).....公益社団法人	(一財).....一般財団法人	(株)..... 株式会社

表紙絵(アール・ブリュット作品紹介)

題 名:エキサイト
制作年:2012年
素 材:ケントボード、アクリル絵の具、ボールペン
サイズ:728×1030mm

佐藤朱美 Akemi Sato
1981年生まれ 北海道在住



佐藤は自宅の居室に創作専用のアトリエスペースを設え、ほぼ毎日朝から夕方まで創作に向かっている。
佐藤の作品の中にひしめく形とポップな色彩との調和は、特有のルールをふみながら生み出されている。画材は主にアクリル絵の具や水性ペンを使用し、絵の大枠を象るモチーフは図鑑などから自由に選んでいく。また絵の中に現れ出る不思議な形と混じりつけない刺激的な配色は、彼女曰く「頭の中に見えてくるイメージに従い、描いている。」とのことだ。色が“見えてこない”時はその部分は最後まで残ってしまい、“見える”までじっと待つのだという。佐藤の描画は“見える”というリレーを繰り返しながら、完成へと向かっていくのである。
佐藤は18歳頃より精神的な病で仕事を行うことが困難となり、母の勧めで絵を描き始めた。それからは、ほぼ毎日自宅で描き続けている。

第18回 児童養護施設で生活する 高校生の海外生活体験の旅

シアトルでホームステイ体験！

「高校生の海外生活体験の旅」は、1998年に始まった児童福祉事業のイベントで、今回が18回目となります。約1週間の海外生活を通して異文化を体験し、ホームステイという形でホストファミリーとのコミュニケーションを通じて、英会話力を高めることが目的です。

今回も定員を超える多数の申込みがあり、書類選考・面接を実施した結果、審査を通過した男子5名、女子5名の計10名が米国に出発しました。滞在したのはワシントン州シアトル。海と湖に囲まれた美しい都市で「エメラルドシティ」とも呼ばれ、テレビや映画のロケ地としても有名です。急成長しているアマゾン、マイクロソフトなどIT産業の拠点でもあり、現在多くの高層ビルが建設され、全米で最も地価が上がっている都市だそうです。

ホストファミリーとご対面

少し緊張した面持ちの10人は成田空港を飛び立ち、16時間の時差があるシアトルに到着。参加者のほとんどが初めての海外ということで、その期待感が約9時間のフライトの疲れを上回り、これから起こるだろうことに目を輝かせていました。

夕方、お世話になるシアトル日本人長老教会で、それぞれのホームステイ先のご家族と対面しました。ホストファミリーは、毎年のようにお世話になっている方だけでなく今回が初めてという家族もいらっしゃいました。

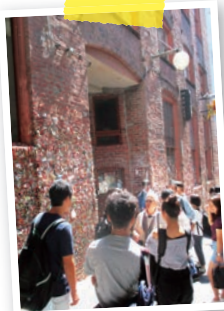
翌朝、教会に集合した高校生たちは、ホストファミリー宅での初めての食事、風呂、習慣など日本との様々な違いに少し驚いていたようでした。

盛りだくさんのアクティビティ

現地2日目の午前中は、パイププレイスマーケット（観光名所の市場）のフードバンクで低所得者の人たちのた



めの食料運搬と配布のボランティア活動を体験。夕方からは最初の英語の授業がありました。翌日は、早朝から遠足。「タコマ富士」の愛称で親しまれているワシントン州のシンボル、レーニア山に向かいました。バスで3時間半ほどかかりましたが、昼前には、登山口に到着し、そこで昼食をとり、高山植物が美しく花を咲かせている自然の



中を散策しました。雲一つない青空の下、清々しい空気を感じながらのトレッキングは本当に素晴らしい思い出となりました。

土日は、それぞれのホストファミリー宅で終日お世話になりました。翌日は2回目の英語の授業。そのあとボーイング社の広大な飛行機工場の見学、ウエストシアトルの公園散策、シアトル・マリナーズvsヒューストン・アストロズの大リーグ野球観戦と、盛りだくさんの一日でした。

最終日、3回目の英語の授業を終え、歴史あるワシントン大学も訪れました。

涙のさよならパーティー

最終日の夕方、参加者10名は浴衣と甚平に着替え、ホストファミリーを招いて「さよならパーティー」を開催。日本から持ってきたホストファミリーへのプレゼントを披露するなどして、お世話になった感謝の気持ちを直接伝えました。また、全員で、東京音頭にのせて「椅子取りゲーム」を行うと、思った以上に大変盛り上がり、会場に笑顔が溢れました。

いよいよ帰国する当日、いろいろな思いがこみ上げ高校生たちの口数が少なく感じられました。ホストファミリーとの別れ際に、思わず涙してしまう高校生もいました。「もっとシアトルにいたい！」「もう一度シアトルにきたい！」「もう一度シアトルにきたい！」という声が多く聞かれました。最初はみんな遠慮



がちで大人しく見えたが、シアトルでの1週間を共に過ごし、最後はすっかり仲良くなって元気いっぱいの10人の高校生でした。

ホームステイという形ではじめての米国生活を経験した高校生たち。

後押ししてくれた関係者に感謝しながら、この旅で知り合った人々の思いやりや優しさを一生忘れないでほしいと思います。そして、この貴重な体験が今後の人生に大いに役立つことを祈っています。



さよならパーティー



参加高校生の感想文(抜粋)

Mくん 16歳

ホームステイ先で、日常生活で使われている英語の表現を学ぶことができたのは、とても勉強になりました。ホストファミリーさんからの手紙に「あなたには居場所がある。これからも連絡を取り合おう」と書いてあり、嬉しかったです。そして「いつかまたアメリカに行く！」と心に決めました。

Sさん 16歳

一番印象に残ったことはフードバンクのボランティアです。現地の人に交じって英語を使って作業しましたが、楽しみながら勉強できて一番充実していました。今回の旅を通して、海外での自分の英語力がわかったので、もっと世界を見てみたいと思いました。

Oさん 16歳

英語の先生はとても優しく、わかりやすい授業をしてくれました。ホームステイ先で楽しかったのはビリヤードやダーツを家族でやったこと、そして美味しい家庭料理をごちそうになったことです。

Tさん 17歳

ホストファミリーさんはとても優しく、まるで家族のように受け入れてくれました。ご飯もおいしくて、一緒にいろいろなことを話すことができて良かったです。また、日本との違いをたくさん知ることができました。街並みや住居、文化など、どれも驚きの連続でした。

Nさん 17歳

約1週間のアメリカ滞在はとても楽しく充実していました。一番の思い出は「大リーグ観戦」です。すごく楽しみにしていた初観戦でしたが、生で見る大リーグはほんとうに迫力があり感動しました。



日程：平成30年7月25日(水)
～8月2日(木) (7泊9日)

場所：ワシントン州シアトル市(アメリカ)
参加者：高校生10人(男子5人、女子5人)
東京・神奈川・千葉の児童養護施設

主催：テレビ朝日福祉文化事業団
共催：(福)東京都社会福祉協議会児童部会
後援：(公財)原田積善会

Sくん 17歳

ホームステイをすることにより、米国の暮らしを肌で感じ体験することができました。英語にたくさん触れることによって、ホストファミリーさんが言っていることがだんだんわかるようになりました。また、いつか海外に行きたいと思いました。

Iさん 17歳

今回参加してアメリカと日本の違いをたくさん知ることができ、多くの人から英語だけではなく、いろいろな事を学ぶことができました。レーニア山への遠足では、一面に広がる景色がすばらしく、日本とのスケールの違いに驚きました。

Sくん 17歳

シアトルは、大きな湖が多く、緑に囲まれていてとても雄大な景色が広がっていて感動しました。一番の思い出はホストファミリーさんと過ごした週末です。パレードに連れてってもらった時には、短い会話ですが自分の思いを相手に伝えることができました。

Sくん 18歳

ホストファミリーさんや現地の人に英語で話しかけることで、だんだん新しい言葉を覚え、身振り手振りで伝えようとするので、感受性が豊かになり自信もついたと思います。日本に帰国してから英語の学習に精進してゆきたいと思います。

Yくん 17歳

一番印象に残っているのは、現地シアトルに住んでいる人たちの人柄です。みんな暖かく親しみやすい人ばかりでした。ホストファミリーさんとお別れの時にしたハグは、これまでの人生の中で一番暖かいものでした。シアトルの町と人がほんとうに好きだったので、また行きたいと思います。英語がペラペラになって。

第6回 農村ホームステイ 体験の旅 in 遠野

児童養護施設の小・中学生に、岩手県・遠野市の農家に滞在して生活や農作業を体験してもらうプロジェクト、6回目の「農村ホームステイ体験の旅」を8月17日から5日間の日程で開催しました。都会の施設での集団生活とは全く異なる環境で、様々な人々と慣習、文化に触れて視野を広げ、積極性・社会性・協調性を養い、自立性を高める一助とするのが目的です。

初めてのホームステイに緊張

応募者の中から書類・作文審査、面接で選ばれたのは小学生6人と中学生4人の計10人。「人の力になりたい」、「植物を育てるのが好き」、「将来農業学校に進学したい」などと、動機がはっきりしている子どもたちばかり。新幹線に乗るのが初めてという子もいて一様に緊張した様子でしたが、東北新幹線で東京駅から新花巻駅に向け出発。お弁当を広げるころには隣の子とおしゃべりが進み、新花巻駅に着いて遠野へ向かう観光バスの中ではすっかり打ち解け、笑い声でとても賑やかになりました。

遠野は民話や伝説が多く伝わる地。一行はまずカップ伝説のある「カップ淵」で、キュウリを餌にカップ釣りに挑戦。昔の豪農の家がある「伝承園」を見学し、カップやオシラサマ、座敷わらしなどの伝説も教わりました。

夕方は、いよいよホストファミリーとの対面式。「どうしよう！」「何て挨拶したらいい？」とバスの中では不安の声が聞こえていましたが、名前を呼ばれて向かい合うと一人ひとりきちんと挨拶し、重い荷物を抱え、これから5日間お世話になるファミリーと一緒に車で家に向かっていきました。

農家で過ごす濃厚な時間

それぞれのホストファミリーごとに、農作業を中心に計画を立ててもらい、各自さまざまな体験をさせてもらいました。

合鴨による自然農法を行っている農家で過ごした子は、早朝から合鴨に餌をやり、モロヘイヤを収穫。肥料にするための草刈りを何時間もやりました。シタケのハウス栽培をしている農家でお世話になった子は、家の子どもたちと力を合わせて、ハウス中に積まれた菌床をきれいにする仕事を続けていて、様子を聞くとすかさず「楽しい！」という答えが。朝、自分で収穫したジャガイモを使って、昼食にファミリーと一緒にカレーを作った子もいました。パドロンというピーマンに似た名産品をつくる農家にいる子は、収穫後、研修生にコツを教えてもらい



ながら、一つ一つ形や傷みをチェックし、出荷準備を根気よくお手伝い。トマトを嫌いなはずの子が、茎から採ったトマトを「美味しい」と食べることができました。



3日目にもなると、子どもたちはすっかりファミリーの一員のようになっていて驚かされました。スタッフが訪問すると、家の子たち

と一緒にスイカを収穫し、お母さんに割ってもらって畑で食べて笑顔がこぼれている子。農家のお父さんと収穫したクワイモを両手いっぱい抱えながら、前日から教わった米の品種や草木の見分け方を一生懸命話してくれる子。前の晩に、ファミリーの夫妻に将来の希望や夢を聞いてもらったのが嬉しそうで、早くも「ずっと居たい」と言っている子。「どんな天災があっても自分で生きていけるように」と、昼のバーベキューを前に、お父さんから薪割りと火起こしを学んでいる子。それぞれ濃厚な時間を過ごしていることが伝わってきました。ホストファミリーからは「飲み込みが早い」、「小学生だということを忘れてしまう」、「とても積極的」などとお褒めの声が聞かれました。

被災地訪問

さて、4日目は特別学習の日。2011年の東日本大震災で最大20メートル近い大津波に襲われ、平野部の市中心部が壊滅した陸前高田市を訪ねました。

子どもたちが今回学習したのは、「海から学ぶ震災」。まず港から船に乗り、復活した牡蠣の養殖を見学。昼食後は、津波で流されたものを海から撤去する活動を何年も続けているボランティアのダイバーから、映像を見ながら講義を受けました。震災後の濁った海中にあるピアノ、家具、ガードレール、船…。みんな驚きの表情でした。しかし次に見た去年の映像では、澄んだ海中にアジやイワシの群れや、たくさんの海藻が。ダイバーたちが続けたお掃除で、海が元気になってきた様子がはっきり分かりました。子どもたちは「汚かった海がこんなに綺麗になるなんですごい」ときちんと感想を伝えていました。



涙のお別れ

最終日の朝。東京へ戻る子どもたちは、ホストファミリーから頂いた野菜やお土産の入った大きな荷物を持って、車で送られて遠野駅に集まってきました。列車が到着すると、お別れの挨拶をして名残惜しそうに列車に乗り込み、駅のホームから懸命に手を振るファミリーの皆さんに見送られ、遠野を後にしました。列車が出発してから、それまでじっとこらえていたのか、下を向いて泣きじゃくっている子、黙って目を真っ赤にしている子もいて、印象的でした。

遠野でお世話になったホストファミリーの皆さんには、子どもたちに温かく接し、家族のように見守っていただき、深く感謝いたします。現地でのアレンジをお願いした遠野山・里・暮らしネットワークの皆さんにもお礼申し上げます。帰京後、各施設長や担当職員からは「遠野であれをした、これをしたとずっと話している」、「お金を貯めて自分で会いに行くとやっている」などと伺いました。

参加児童の感想文(抜粋)

中2女子

野菜収穫が楽しかったです。自分で収穫した野菜を食べた瞬間、すごく美味しくてびっくりしました。遠野は地域の人みんなが親切で優しくて、すっかり好きになりました。高校を卒業したら友人を連れてまた行きたいです。

中3女子

私たちの生活や命は、いくつもの数えきれない犠牲や人々の努力があってのものだということを学びました。ブルーベリーのまわりの雑草取りのほか、牛の農家さんでミルクをあげたり、牧草をエサ箱にいれたりし、牛を育てる大変さを身に沁みて感じました。牛もブルーベリーも、農家さんの愛情が詰まっていることを忘れません。

小6女子

遠野に着いて驚いたのは、緑がいっぱいで空気がキレイなことでした。菜園でつくったトウモロコシが新鮮でおいしく、採れたてはどの野菜もおいしいんだと思いました。ホストファミリーのお家で収穫したような野菜を育てて、できたら見てもらいたいです。また遠野に行きたいです。

小6男子

農業の大変さを学びました。収穫をみて「簡単そうだなあ」と思っていたのに、やってみるととても大変でした。陸前高田では、7年前の地震なのにまだショベルカーで土地をならして、津波の傷跡があるのをみて驚きました。ダイバーさんの話を聞いて、海のがれきがすごく多かったと知り、大変な作業をしていたのだと思いました。

小6女子

動物が好きなので、牛やヤギにやさしくしていたらだんだん馴れてくれてうれしかったです。エサやりにも挑戦して楽しかったです。感謝の気持ちを忘れないようにしてたくさん働きました。この体験は忘れられない思い出になりました。

今回、ホストファミリーと過ごした日々を通して心に刻まれ、学びとったことが一人ひとりの血肉になり、成長につながることを願っています。



日 程:平成30年8月17日(金)～21日(火)(4泊5日)
場 所:遠野市(岩手県)
参加者:小学校高学年6人、中学生4人(男子3人、女子7人)
東京・神奈川・千葉・埼玉の児童養護施設
主 催:テレビ朝日福祉文化事業団
共 催:(福)東京都社会福祉協議会児童部会
後 援:(公財)原田積善会
協 力:(特非)遠野山・里・暮らしネットワーク

参加ホストファミリーの感想(抜粋)

●一緒に風呂に入ったりしました。頭のいい子で、将来の夢であるコックになれるよう祈ります。

●一度教えると一人でもできる子で、安心して付き合えました。わが子の時と違いキリキリせずゆったりと子育てしているようで、私たちも成長させてもらえます。今後も続けてください。

●打ち解けるにつれてさまざまな話をしてくれました。動物も気に入ってくれ、特に犬は可愛がってずっとそばにいました。素直に進んでいってくれたらと思います。

●本当に自然が好きで、緑と川に囲まれて穏やかに見えました。家の子どもたちもこの出会いを喜んでいて、お互いに勉強になりました。さよならパーティーでは家族のようにほしやいでとても良かったです。

●私たち家族にとっても貴重な体験でした。将来自分がやりたいこと、夢をしっかり持ち、それに向けて準備していて、すごく感心しました。夢が叶うことを願っています。

●何でも一生懸命やろうとする、意志の強い子どもでした。施設の子どもたちのために大人として少しでも役に立つことができ、できることをするのは大人の責務です。長く続けたいプロジェクトだと思っています。



第7回 子どもキラット！ 楽演祭

児童養護施設で暮らす子どもたちの発表会「子どもキラット！楽演祭」を、11月11日（日）、東京・虎ノ門のニッショーホールで開催しました。今年は、東京都、神奈川・埼玉・千葉3県の計11の施設から300人が出演し、15の演目を競演。見学者を含め500人が、3時間半にわたって各施設の子どもたちの発表を楽しみました。



このイベントは、施設の子どもたちの日ごろの文化活動の目標となるような発表の場をつくってほしいという声を受けてスタート。今年で7回目となりました。演目は合唱、創作ダンス、ハンドベルなどの楽器演奏、日本舞踊、お笑いなど多岐にわたります。幼稚園児から高校生まで、子どもたちはこの日のステージに向けて、施設によっては先生や卒園生も一緒になって、夏休みも欠かさずに練習を重ねるなど熱心に取り組んでいます。

年々レベルも上がってきている 年に一度の大舞台

トップバッターは賛美歌をもとにした「キッズ・ゴスペル」。女子高校生のよく通るアカペラで幕を開け、会場を驚かせてくれました。続いて、トランプの妖精が舞踏会で演じるという設定のユニークな創作舞踊。そして「キラット！楽演祭」史上初めての演目、「お笑い」が登場。2人の中高生と先生の微妙な間合いや物真似に、子どもたちの無邪気な笑い声が何度もホールに響きました。このあと、日本舞踊や合唱、ヒップホップダンス、きらきらする音色のトーンチャイムの演奏で第1部の子どもたちの演目は終了。

休憩をはさんで第2部は美しいミュージックベルの演奏からスタート。糸乱れぬストリートダンス、施設で50年以上の活動の歴史をもつ合唱、3つのグループによるヒップホップダンスメドレー、難曲にも取り組んだハンドベル演奏、「これがわたし」という、一人ひとりの存在をいきいきと表現した創作ダンスと、レベルの高いパフォーマンスが続きました。最後は総勢40人近い子どもたちと先生による、新聞をこする音や手拍子も加えた独創的で楽しい合唱でした。



スペシャルゲスト「仮面女子」！

子どもたちを盛り上げてくれる今年のスペシャルゲストは、「最強の地下アイドル」といわれる「仮面女子」の8人のユニット「スチームガールズ」。リーダーの猪狩ともかさんは、2018年4月に遭った事故で下肢に障がいを抱えましたが、リハビリを続けて8月に車いすで活動を再開したばかり。今はメンバーとともにステージに出演する一方、パラスポーツの大会や野球の始球式、イベントなどへ激励にも訪れています。そんな猪狩さんを含め、「仮面女子」みんなが、さまざまな困難に負けず、支え合って笑顔で元気に立ち向かっていくアイドルとして知られています。

幕が上がり暗転から徐々に明るくなって、原色のきらびやかな衣装と仮面をつけた8人が登場。アップテンポ



の曲で歌とダンスが始まると、会場の子もたちから歓声と手拍子が。車いすの猪狩さんも含めて、ピタリと揃ったキレ味のいい激しい動きが次々と繰り出されました。最初は仮面を装着してパフォーマンスをしていた8人ですが、踊りながら仮面を上手に外したり、また装着したりします。途中、メンバーが客席に降りて通路をまわりながら、ペーパーガンで紙テープのようにトイレットペーパーを噴き出させると、子どもたちも大興奮でした。

最後は全員仮面を外して並び、司会の池谷麻依アナ



ウンサー（テレビ朝日）と高校生2人から、「マイブームは？」、「将来の夢は？」などと質問を受け、にぎやかなおしゃべりタイムに。メンバー最年少はこの日が誕生日の16歳とあって世代も近く、子どもたちにも一気に親しみやすい存在になったようでした。

いよいよ迎えたフィナーレは、この日の参加者全員で「幸せなら手をたたこう」を合唱することに。池谷アナの誘導で、「仮面女子」のメンバー、そして客席にいた子どもたちが一斉に舞台にあがり、ステージはたちまち立錐の余地もない満杯状態に。猪狩ともかさんが呼びかけてリードをとりながら、全員大きな声で歌い終えると大きな拍手が沸きました。「仮面女子」のメンバーたちは大人気で、しばらく身動きがとれないほど子どもたちに取り囲まれ、話しかけられていました。

当事業団としては、施設の子どもたちが一つの目標に

向かって何カ月もかけて一緒に練習や創作に取り組み、そのゴールとして大きな晴れ舞台に立って達成感や一体感を感じてもらうことで、前向きに頑張ることやみんなを力を合わせることの楽しさ、大切さを学ぶ機会となることを願っています。また、他の施設の子どもたちの様子や発表をみて、お互いに学んだり刺激を受けたりして、より成長するきっかけにもしてもらいたいと思っています。

共催の東京都社会福祉協議会児童部会、後援・助成いただいた原田積善会、後援のテレビ朝日、施設関係者の方々をはじめ、ご協力・ご尽力いただいたすべての皆さまに感謝いたします。



日程：平成30年11月11日（日）
場所：ニッショーホール（東京都港区）
主催：テレビ朝日福祉文化事業団
共催：（福）東京都社会福祉協議会児童部会
後援：（公財）原田積善会・（株）テレビ朝日

参加施設へのアンケート（抜粋）

- 毎年子どもたちに発表の場をつくって頂いてありがとうございます。みんなの頑張る姿、キラキラの笑顔を見ることができてとても楽しかったです。
- 無事本番を終えることができ、職員も児童も達成感に満ち溢れています。毎回参加していますが、例年通りみんな一体となって楽しむことができました。他の施設の子どもたちの成長も感じることで感動しました。
- 年に一度、大きな舞台で発表できるので、子どもたちにとってはとてもよい経験になると改めて感じました。
- 初めての参加でした。子どもたちはこんなに大きな舞台で大勢の人の前で何かをするという経験がありませんので、今回、その緊張と楽しさを味わってもらうことができました。他の施設の発表もよい刺激となり、子どもたちの「何かをやりたい」という意欲が増しました。
- ゲストの「仮面女子」は、メンバーの猪狩さんが事故を乗り越えているという背景がある方だったので勇気づけられたように感じました。パフォーマンスとともに子どもたちへのメッセージももらえて嬉しいです。
- ダンスで参加しましたが、子どもたちがすごく良い顔で踊っていました。終わったあとすぐ、「楽しかった」、「来年も参加したい」と言っている子も。ゲストの「仮面女子」もとても元気がよく、楽しいパフォーマンスでした。



テレビ朝日見学と特別講座

児童養護施設で生活する児童のために「テレビ朝日見学と特別講座」をテレビ朝日本社で行いました。当日は、青空の広がる秋晴れの好日となり、東京都と埼玉県から2つの児童養護施設12人の参加者が集まりました。全体説明の後の簡単な自己紹介では、大型スクリーンに映し出された自分の映像が、恥ずかしがりながらも笑顔でしっかりアピールしました。



館内見学の前に、テレビ朝日の仕事を15分にまとめたDVDを鑑賞し、テレビ朝日お客様フロント部担当者の先導で約1時間の見学に出発。当日生放送予定の「サンデーステーション」で使用される第3スタジオでは、ちょうどカメラの調整中でしたが、スタジオセットの配置が使い勝手よく工夫されていることや、美術セットの具体的な説明などを聞くことができました。その後、番組で使用する小道具から大道具、スタジオセットまであらゆる物を扱っているコーポレートデザインセンター前に移動すると、実際にドラマやバラエティー番組で使用された小道具をスマホで自撮りしたり、手に取って重さ確かめてみたりして、興味津々といった様子でした。

後半は、ニュースカメラマンの講義と、元アナウンサーの「話し方を学ぼう」という2つの「特別講座」を受けました。テレビを見ているだけでは分からない裏話も盛りたくさん。実際に放送で使用されたニュース原稿をニュース映像に合わせて読み上げたり、インタビューのコツを具体的な例を参考に学んだりしたあと、事前に用意



してきた各自の好きな物についてインタビューをする「これが私の好きな物」という番組制作にチャレンジ。2つの施設ごとにチームとなってインタビュアー、ゲスト、カメラ、音声の役割を決め、本番の様子は、会場の大型モニターに映し出され、各々自分の役割を楽しみながら番組制作を体験することができました。



3時間半に及んだ館内見学と特別講座ですが、有意義な時間を過ごすことができました。後日児童養護施設職員の方から「子どもたちが、『とても楽しかったので、また参加したい』と言っています」との感謝の言葉もいただきました。

日 程:平成30年9月23日(日)
場 所:テレビ朝日(東京都港区)
参加者:東京・埼玉の児童養護施設2施設12人
主 催:テレビ朝日福祉文化事業団
後 援:(福)東京都社会福祉協議会児童部会
協 力:(株)テレビ朝日

参加児童の感想(抜粋)

Oさん 小6
 ミュージックステーションでは、300人近くの人がかかわっていて、本番までに台本を読んだりして、いろいろ大変なのだと思います。一番すごいと思ったのは、クロマキー技術です。スタジオで実際に、みどりの画面にいろいろなものがうつし出されていました。

Yさん 小6
 アナウンサーのやり方など勉強になりました。私ははずかしがりやでしたが、カメラマンやインタビュアーをしてははずかしいのが、少しなくなりました。

Mさん 高2
 テレビを普段何気なくみているけれども、苦労がたくさんあることがわかりました。

Tさん 職員
 子どもたちに貴重な体験と経験の機会を作ってくださいありがとうございます。他にも参加希望の児童もありましたが、運動会と重なり残念がっていました。今後ともどうぞよろしくお願いします。

江戸っ子杯争奪 東京都児童福祉施設 競技大会2018 野球の部

東京都内の児童養護施設がさまざまなスポーツで競い合う「江戸っ子杯」。その野球の部が、10月14日(日)、府中市の「トヨタ府中スポーツセンター」で開催され、7施設4チームの子どもたちと職員およそ160人が参加し、球音と元気な歓声を響かせました。

始球式 元千葉ロッテ黒木投手

始球式に来て頂いたのは千葉ロッテマリーンズで「魂のエース」と称された投手、黒木知宏さん。ゆっくりと投げた球をキャッチャーの子がきちんとミットに収めたのを見て、「よし。レベル2!」、「次はレベル3いくぞ!」と速度を上げて投球。「ナイスキャッチ!」という掛け声が何度も響く異例の始球式となり、さっそく子どもたちを沸かせました。



例年7月の開催でしたが、今年は猛暑でやむなく順延。他の行事と重なって出場できなくなった施設も出たため、参加は「聖ヨゼフホーム・二葉むさしが丘学園」、「石神井学園」、「調布学園・調布第二学園」、「至誠学園・至誠大地の家」の4チーム。選手の顔ぶれは、小学校低学年から中学生まで年齢も背丈も体力もさまざま、また不慣れな子から経験豊富な子まで技量もさまざま。男子に交じって女子の姿も目立ちました。各チームとも応援のにぎやか



な歓声をバックに、こうした違いを越え一体となって、ボールを狙い、夢中で追い、懸命に走り、仲間同士で気合いの声を上げ、真剣勝負を繰り広げました。

試合の合間には、黒木さんが子ども相手にキャッチボールをしたり、次の試合へアドバイスをしたり。また、早くサインや写真撮影を受けて頂き、並んだ子どもたちはカバンやバット、頬にまでサインをもらい、大喜びでした。

閉会式では、テレビ朝日福祉文化事業団が全チームにトロフィー、副賞としてバット、グローブを、最優秀選手には盾と副賞のウインドブレーカーを贈呈しました。子どもたちには、今後もスポーツを続けて、健康や体力増進とともに、一つのことに打ち込む楽しさやチームワークの大切さも学んでいくことを期待しています。

日 程:平成30年10月14日(日)
場 所:トヨタ府中スポーツセンター(東京都府中市)
主 催:(福)東京都社会福祉協議会児童部会
共 催:テレビ朝日福祉文化事業団
後 援:東京都・(公財)毎日新聞東京社会事業団・(公財)報知社会福祉事業団・トヨタ自動車(株)

児童福祉施設職員のためのワークショップ

子どもの気持ちに寄り添い、関心を持って耳を傾け共感することで子どもの行動の背景にある感情を理解し、問題行動に対応する方法を学ぶ1泊2日の児童福祉施設職員のためのワークショップが開催されました。

今回も1980年代から児童虐待、ネグレクトの問題に取組み、また日米の子どもと家族の治療に関わってこられた心理学博士の田中万里子先生(サンフランシスコ州立大学名誉教授)を講師にお迎えしました。講義に加え、事前に参加者から提出してもらった事例を検討し講師から

のコメントを受けたり、身体を使ったエクササイズや姿勢の大切さを学んだり、盛りだくさんの二日間でした。

日 程:平成30年10月23日(火)~24日(水)
場 所:パレスホテル立川(東京都立川市)
参加者:全国の社会福祉施設職員22人
主 催:テレビ朝日福祉文化事業団
事務局:(特非)エンジェルサポートセンター

第60回記念 慈彩会展

慈彩会は自然を愛し美を愛する各界の有志により、日ごろから絵画・書・工芸などに親しむ方々が社会福祉施設に絵を贈る運動として昭和33年(1958年)に発足しました。出品作品はすべて作者から無償で提供され、社会福祉施設に寄贈されています。また希望者への販売も行われ、収益金は助成金として社会福祉活動に役立てられます。

これまでに全国の福祉施設に贈呈された作品は累計で5497点、延べ3776施設となりました。

今年は第60回記念ということで、記念式典も開催されました。54回も出展された女性書家の方などに感謝

状が贈呈されました。また、この展覧会には毎回、常陸宮妃殿下からも御出品いただいております。今回も妃殿下の「新年歌会始の詠進お歌」(書)の特別御出



品をはじめ、総計164点もの作品が出展されました。洋画・水彩画・日本画・書・工芸・写真と多岐にわたる素晴らしい作品が会場に所狭しと飾られ、中には思わず笑いを誘うユニークな作品や、109歳の作者の「ちぎり絵」などもあり、見ごたえのあるものとなっていました。



日 程:平成30年8月29日(水)～9月3日(月)
場 所:日本橋三越本店(東京都中央区)
主 催:慈彩会
運営事務局:(一社)日本民生文化協会
後 援:厚生労働省・東京都・テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

第63回 全国里親大会 石川大会

日 程:平成30年11月17日(土)～18日(日)
場 所:石川県地場産業振興センター(石川県金沢市)
主 催:厚生労働省・石川県・金沢市・石川県里親会・(公財)全国里親会 ほか
共 催:テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

第64回 関東甲信越静 里親協議会 静岡市大会

日 程:平成30年7月8日(日)
場 所:静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ(静岡県静岡市)
主 催:(公財)全国里親会・関東甲信越静里親協議会・静岡市里親会
後 援:テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

こどもの国 お正月行事 「ジャンボカルタとり大会」と「どんど焼き」

こどもの国の新年の恒例行事、「ジャンボカルタとり大会」と「どんど焼き」が今年も大勢の人々を集め開催されました。両行事ともにお天気に恵まれ、青空が広がる中央広場で行われました。

伝統的な正月行事の一つ「どんど焼き」では、参加者が持ち寄った松飾り・書初め・願い事が書かれた短冊を付けた笹の木などを櫓にくべて、厄払いや無病息災、諸願成就を願いました。毎年、テレビ朝日福祉文化事業団は、どん

ど焼きに参加する子どもたち(先着300名)に焼き芋をプレゼントしています。また、残り火を使用した焼きマシュマロ体験も実施し今年も大好評でした。

こどもの国が開園以来、約50年続いているふたつのイベントは、新年の風物詩となっています。



日 程:【ジャンボカルタとり大会】平成31年1月2日(水)、3日(木)
【どんど焼き】平成31年1月13日(日)
場 所:こどもの国(神奈川県横浜市)
主 催:(福)こどもの国協会
後 援:テレビ朝日福祉文化事業団

日本児童養護実践学会 第11回研究大会

日 程:平成31年2月23日(土)～24日(日)
場 所:とりぎん文化会館(鳥取県鳥取市)
主 催:(一社)日本児童養護実践学会
後 援:厚生労働省、テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

「憩いの家」 資金バザー

日 程:平成30年12月19日(水)～24日(月)
場 所:日本橋高島屋(東京都中央区)
主 催:(福)青少年と共に歩む会
後 援:テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

母子のためのテレビ朝日 見学体験ツアー2018



「母子のためのテレビ朝日見学体験ツアー」は、住所を公表しない母子生活支援施設で暮らすお母さんと子どもをテレビ朝日に招待し、外出して気分転換を図ってもらうことを目的にしています。今年も5、6月の日曜日3日間、26組80人をテレビ朝日に招待しました。

テレビの仕事がよくわかる見学コース

今年の見学コースは、「ANNニュース」生放送見学→「サンデーステーション」出演アナウンサーとの記念写真撮影→コーポレートデザインセンターで美術セットの模型や小道具見学→ウェザーセンター・ニュースCG室→テレビ朝日



屋上散策→アトリウム(番組宣伝コーナー、テレ朝ショップ)やAbemaTVなど自由観覧→「サンデーステーション」リハーサル見学、と盛りだくさん。



さんの人がそれぞれのポジションで動きテレビ番組が作られていることを知ることができました。コーポレートデザインセンターでは、精巧に作られているセットの模型や小道具に顔を近づけていると、警備のお兄さんが煉瓦を重そうに運んできて、手伝いにいった子どもたちが「あっ!!」とその重さ?に大笑いでした。

大竹まことさんに遭遇!



5月27日の回では「TVタックル」を見ながら食事を終えた参加者が、テラスで大竹まことに遭遇!! ご本人から参加者に話しかけてくださって、話をしてくれたり、一緒に記念写真を撮ったり……思いがけないハプニングに、この日はさらに笑顔がいっぱいあふれていました。

6月24日の回は、生後3カ月以上3才未満の子どもを持つお母さんも参加できるよう、テレビ朝日構内に初めて託児所を設け、保育士4名に7人の幼児を約5時間みてもらいました。育児の手を休めてお母さんが館内見学を楽しむ間、幼児たちも仲良くおもちゃで遊んだり、ぐっすりお昼寝したり、機嫌よく過ごしていました。

施設職員の方から「苦痛を味わい、大変な思いをされてきた方ばかり…自立に向けて前に進むには、温かい励ましは何よりの力になる。今回の経験は別の世界を見るだ



けでなく、多くの励ましを実感する機会になった。スタッフの方にお気遣いいただき本当に楽しい一日だった」という心に沁みる感想もいただきました。

これからも母子生活支援施設で生活する方々に喜んでいただけるよう、この事業を継続して参りたいと思っています。ご後援、ご協力いただいた関東ブロック母子生活支援施設協議会、番組関係者をはじめテレビ朝日各署のご協力に心からお礼を申し上げます。

日程:平成30年5月20日(日)、27日(日)、6月24日(日)
場所:テレビ朝日(東京都港区)
参加者:母子26組80人
未就学児童17人、小学生23人、中学生4人、高校生1人ほか
東京・神奈川・千葉・埼玉のべ15施設 ※託児所利用7人
主催:テレビ朝日福祉文化事業団
後援:関東ブロック母子生活支援施設協議会

参加者からの 感謝のお手紙の一部



参加者からの感想文(抜粋)

横浜市 Sさん、中1女子、小1男子

- 分かりやすい説明付きで、いろんな箇所を見ることができて良かったです。なかなか入ることができない場所を見学できて貴重な経験ができました。
- アナウンサーとの記念撮影は、とても嬉しかったです。一日楽しく過ごせました。
- ごはんがおいしかったです。ソフトクリームがおいしかった。じぶんでつくるのがよかった。

戸田市 Hさん、小6女子、小2女子

オンエア中の生放送を見られたこと、アナウンサーの方と写真を撮れたこと、スタジオや、オンエアの際の色々なスタッフさんを見られたこと、裏方さんの部屋を見られたことがよかった。

江東区 Kさん、小6女子

- 小さい子どもから大人までとても楽しめる貴重な体験でした。マイペースな子どもにも親切にくださり、皆さん温かく接してくださったことも感謝いたします
- 本物のアナウンサーさんと一緒に写真を撮るなんて夢のようです。普段見られない技術を見せてもらい、おどろきました。すごいとしが言えないですね。たのし〜い。

東京都 Nさん、1歳男子

何気なく見ているテレビ画面の中のセットやカメラの動きや、活いているお花も人間が作り出しているんだと思うと、見方が変わりそうです。スタッフさんたちの真剣で誇りをもって仕事をしている感じがうらやまくなりました。私も、これから頑張ろうと思います。ありがとうございました。

東京都 母子生活支援施設職員

普段一般人が入れない内部を見学させていただき、皆様の説明付きで見られたのがとても貴重な経験となりました。お母さんにとっても良い思い出、リフレッシュになったのではないかと思います。ランチの際に大竹まことさんがいらして、思いがけずとても心のこもった良いお話をしてくださり、素晴らしい貴重なお時間をいただきました。

埼玉県 母子生活支援施設職員

参加者も帰り道「楽しかった」と満足気な顔をしていました。普段乗らない路線に乗って都会まで行くだけでも、子どもたちにはとても良い経験でした。ニュース見学では「私もテレビにでたい」と子どもの夢が広がり、昼食では、たくさんの中から好きなメニューを選べることに感動していて、おまけにデザートまであって、質素な家庭にとっては夢のような時間だったのではないのでしょうか。

五感で楽しむ音楽会 2018 ～LIVE TOGETHER CONCERT～

10月20日(土)、品川区立総合区民会館「きゅりあん」8階大ホールにて、障がいのある方もない方も共に楽しめる入場無料のクラシックコンサート「五感で楽しむ音楽会 2018 ～LIVE TOGETHER CONCERT～」を開催しました。「トゥレヴァン・コンチェルト」や昨年の創立40周年記念「LIVE TOGETHER！」を継承した、テレビ朝日福祉文化事業団の障がい者福祉の大きな催し物です。障がいのある方々にも会場で音楽を楽しんでいただけたら、盲導犬の入場のほか、手話通訳、字幕、各種スピーカーやヒアリングループの設置など様々な鑑賞サポートをご用意しました。当日は秋晴れの好日となり、大ホールがほぼ満席となる900名以上のお客様にご来場いただきました。

第1部 プロの心に響くコンサート

第1部は、視覚障がいを持ちながらも世界的に活躍するヴァイオリニストの川島成道さん、左手のピアニストとして知られる智内威雄さんの演奏を堪能し、心に響くコンサートとなりました。



川島さんのヴァイオリンを期待して来られているお客様も多く、その繊細で厚みのある音色を体験し、「感激した」「鳥肌が立った」と多くの



喜びの声を頂戴しました。また智内さんのピアノは、本当に左手だけで演奏されているとは思えないような音色です。そこで今回、智内さんの手元を撮影した映像をスクリーンに映写する試みをしたところ、「本当に左手だけで驚いた」「感動した」との声が寄せられました。お2人とも演奏される曲目を解説し

左手のみの演奏



ながらそれぞれ40分近くの見事なステージを披露していただきました。

第2部 五感で楽しむブラスアンサンブル

第2部は、東京藝術大学出身のプロオーケストラ奏者を主体として結成されたブラスアンサンブル・ゼロによる演奏と映像とが共演する、視覚や聴覚に障がいを持つ方も音楽を楽しめるような工夫を凝らしたステージです。

オープニング曲は、会場全体を活用し客席に下りた演奏者が一人ずつ音を出す「音のリレー」。目を閉じていても、聴覚に障がいがある方でも、演奏者の位置と音の振動、ホールの広さなどを体感していただくことができました。

3曲目のドヴォルザーク交響曲第9番「新世界より」第4楽章では、東京藝術大学社会連携センターCOI拠点の製作した映像が生演奏に同期して大型スクリーンに映し出されました。まるで映像が音を奏でるように、ぴったりと演奏にシンクロする映像と音との共演は見ごたえがありました。

続いて4曲目では、筑波大学附属聴覚特別支援学校の小学6年生の2人の生徒にスネアドラムで演奏に加わっていただきました。タブレットで音量を視覚化したアプリを使用することで、聴覚に障がいがある方でも自分の演奏している音のタイミングと音量が直感的に把握することができます。大きなホールでプロの演奏者と共演するのはたいへん緊張したと思いますが、立派に演奏をしてくれました。演奏後には支援学校の後輩たちがステージに駆け寄り、2人に花束を渡している光景も感動的でした。

最後に、第1部に出演した川島成道さん、智内威雄さんにも加わっていただき、全員で「花は咲く」を演奏、会場のお客様も合唱しました。智内さんのピアノの音ではじま



生演奏に映像がシンクロ



筑波大学附属聴覚特別支援学校の生徒

り川島さんの美しいヴァイオリンが加わり感動的なハーモニーを響かせているところに、ブラスアンサンブル・ゼロの管楽器も重なっていきます。歌いながら涙しているお客様もいらっしゃいました。曲が終わると、大きな拍手とともに、「ありがとう！」と声をかける方もいらっしゃいました。

鑑賞サポートも充実

ロビーには、抱っこスピーカー「ハグミー」と、髪の毛で音を感じる装置「Antenna」の体験・貸し出しブースを設けました。聴覚に障がいのある方だけでなく、一般の方にも触れていただきました。また、ヤマハと東京藝術大学COI拠点が共同で開発した「だれでもピアノ」を体験していただくブースも設けました。片手の1本指だけでメロディを奏でると、そのメロディのタイミングや強弱に合わせて自動で伴奏とペダルがついてきます。初心者や障がいのある方でもピアノを上手に演奏できてしまうというグランドピアノを体験しようと、ロビー内には行列ができていました。

テレビ朝日福祉文化事業団は、障がい者福祉のため、また社会福祉法人の地域社会への貢献が望まれる今、未来



ご来場の皆さまの声(抜粋)

- 最高に素晴らしいコンサートでした！！感動いたしました。
- すばらしい企画です。今後も続けてください。
- 川島さんの演奏、感激の一言！
- 川島さんのヴァイオリンの音の厚み、人間性があらわれてました。
- 左手のピアニスト智内威雄さんの演奏に涙ぐんでしまった。
- 智内さんのピアノには感動しました。片手でもできる。人はやればできるんだと感じました。
- 障がいを乗り越え明るく音楽活動が続けていることに感動しました。
- 障がいがあっても、全ての人に平等にチャンスがあると感じました。ただ、そのチャンス・機会とどう巡り合うかという事の大切さ。わが子にもいろいろ前向きに障がいに負けず進んでほしいと思いました。
- 五感を使って楽しい時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。
- 筑波大学附属聴覚特別支援学校のお子さん2人が一生懸命スネアドラムをたたき姿に感動しました。このようなアプリで強弱を表現し演奏できるという事にもびっくりしました。
- 特別支援学校の子供もが舞台上がり、暖かい拍手が沸き起こっていたのが良かった。
- 「花は咲く」は歌っていて泣けてきてしまいました。
- 障がいのある人となない人のコミュニケーションの場を体験するコンサートで、素晴らしいと思います。
- 磁気ループ（ヒアリングループ）席を用意して頂きありがとうございました。おかげさまで音楽を充分楽しめました。
- 日常の忙しさを忘れ、ほのぼのと昔を思い出すやさしい気持ちになれるコンサートでした。ありがとうございました。
- とても感動しました。勇気や愛をたくさんもらいました。
- 心から感動しました。今までにないクラシックコンサートが楽しめたからです。

へ向けての新しい一歩となるよう、今後もこのような取り組みを継続していきたいと思います。出演者の方々をはじめ、ご賛同くださいました協賛各社、ご協力いただきました関係各位、そして当日ご来場のお客様に深く感謝申し上げます。



だれでもピアノ

日程：平成30年10月20日(土)
場所：品川区立総合区民会館「きゅりあん」8階大ホール
主催：テレビ朝日福祉文化事業団
共催：東京六本木ライオンズクラブ
後援：品川区・(福)東京都社会福祉協議会・(福)品川区社会福祉協議会・(株)テレビ朝日
協力：東京藝術大学COI拠点・筑波大学附属聴覚特別支援学校
特別協賛：(株)竹中工務店・ダイダグン(株)
協賛：ALSOK東京(株)・(株)伊佐梅・(株)大塚商会・(株)関電工・(株)コマデン・(株)シービーエス・(株)台東サービス・(株)デルミック・(株)東京美術・富士ゼロックス(株)・富士通(株)・(株)ミヤギ・横浜エレベータ(株)東京支店

第41回 車いす バスケットボール秋季大会

第41回となる「車いすバスケットボール秋季大会」を、2018年9月22日(土)、23日(日)の両日、千葉県千葉市の「千葉ポートアリーナ」で開催しました。

2020年の東京パラリンピックが近づき、パラスポーツ全体への注目は近年に近く高まっています。中でも、障がいのない選手も一緒になって競り合う車いすバスケットボールは、その激しさ、スピード感からも人気が高く、花形競技の一つです。40年余り続くこの秋季大会は、全国の選手たちの目標となり、選手層・ファン層の裾野を広げること貢献してきました。

今回は全国から集まった6チームを2グループに分けて、総当たりのリーグ戦方式で実施。車いすが軋む音やボールのバウンド音、選手の掛け声が終始館内に響き渡る、熱い戦いを繰り広げました。Aグループは「群馬マジック」、Bグループは「相模FORCE」がそれぞれ優勝を手に入れました。

テレビ朝日福祉文化事業団は、この大会に第1回目か



ら共同主催という形で参加させていただいています。日本車いすバスケットボール連盟の方々、千葉市の関係者の方々、ボランティアの方々の熱意と善意により今回も無事に大会を終えることができました。今回秋季大会に参加した選手の皆さんが、より高い目標に向けて更に切磋琢磨していくことを期待します。

日 程:平成30年9月22日(土)～23日(日)
場 所:千葉ポートアリーナ(千葉県千葉市)
主 催:(一社)日本車いすバスケットボール連盟
共 催:テレビ朝日福祉文化事業団
後 援:千葉市・千葉市教育委員会
協 力:(株)モルテン・淑徳大学



第42回 ハンディスキー全国 親善大会(長野県菅平大会)

怪我や病気などで肢体に障がいがある人たちがスキーの技術を披露し合うイベント、第42回ハンディスキー全国親善大会(長野県菅平大会)が、菅平高原ハーレススキーリゾートで1月25日(金)から2日間の日程で開催されました。この大会は、タイムなどの成績を競い合うだけでなく、障がいを乗り越えてスキーを楽しむ全国の仲間が集い、交流を深めることも目的としています。テレビ朝日福祉文化事業団は、1978年に常陸宮両陛下ご臨席のもとで開催された第1回(長野・斑鳩高原)から共催してきました。

今回開催の菅平は、気温が低く雪質がよいことで知られ、初級者から上級者まで多くのスキーヤーに長年親し



まれ、愛されてきたスキー場です。北は秋田県、南は愛知県から、障がいがない人も含めて計32人が選手として参加。また地元スキー場、スキークラブをはじめとするボランティアの皆さんにコース設営や運営、安全管理にご協力いただきました。

競技はアルペン・大回転ですが、タイムの速さを争うの



ではなく、同じコースを2回滑り、2回のタイム差が一番少ない選手が優勝となる「チャレンジタイムレース」。スピード勝負と異なり、自分の滑りをどうやって正確にコントロールできるか、その技術が勝敗のカギとなります。

競技を行ったグレンデにある「かもしかコース」は中級者レベルの斜面で、全長約500メートル。競技の開始前に雪がちょうど降りやみ、雲間から僅かに太陽の光が射し、青空も顔を出しました。



赤と青の旗門が交互にセットされたコースを、初級クラスの1回目から順番にスタート。腕や片脚に障がいのある選手が義足を外して片脚だけに1枚のスキー板を履いて、



あるいは義足の方にもスキーを履いて2枚のスキー板を使う「立位(スタンディング)」、両脚に障害がある選手がチェアスキーで滑る「座位(シットイング)」、さらに健常者と、滑り方はさまざまですが、全員、果敢に風を切ってシュプールを描き、旗門を次々と通過していきました。

クラス別に2回の滑走を終え、夕方にはホテルに戻り表彰式が行われました。クラスごとに、2本のタイム差が少ない順に発表され、上位3人に金・銀・銅のメダルが贈呈されました。全選手の記録をみると、タイム差が1秒以内の選手は全32人中、実に12人。0.00秒単位というハイレベルの競争でした。

表彰式のあとは、夕食をとりながら交流会が行われました。親善大会の名の通り、競技を振り返ってお互い健闘を称えつつ、久しぶりの再会に近況を報告したり冗談を言い合ったりして旧交をあたためる人たちの姿も多く、笑顔が溢れていました。

参加選手の皆さんをはじめ、長い期間をかけて準備にあたっていただいた日本身体障害者スキー協会、大会開催に尽力くださった全ての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

試合結果



伊藤義人
(愛知県)

タイム差 0秒41



三原章夫
(宮城県)

タイム差 0秒17



鈴木勝統
(愛知県)

タイム差 56秒11



吉川藍流
(愛知県)

タイム差 0秒15

日 程:平成31年1月25日(金)～26日(土)

場 所:菅平高原ハーレススキーリゾート
(長野県上田市)

主 催:(一社)日本身体障害者スキー協会

共 催:テレビ朝日福祉文化事業団

後 援:長野県・上田市・
(公財)長野県スキー連盟・
(公財)長野県障がい者スポーツ協会・
長野県障がい者福祉センター・
信濃毎日新聞社・長野朝日放送(株)

協 力:菅平高原ハーレススキーリゾート・
ホテルシュワルツ・ホテル城山館・
菅平高原スキークラブ

NAKANO街中まるごと美術館! アール・ブリュット ～人の無限の創造力を探求する2019～

東京・中野の4つの大型商店街一帯を美術館に見立て、近年、世界的に注目されている「アール・ブリュット（生の芸術）」と呼ばれる、優れた芸術作品を紹介するイベントが、1月25日から3月3日にかけて開催されました。

「アール・ブリュット（ART BRUT）」とは、専門的な美術教育を受けていない人々が独自の方法や発想で生み出す芸術作品のことで、ARTは「芸術」、BRUTは「生のまま／加工されていない」という意味のフランス語です。20世紀半ば、フランスの現代芸術家ジャン・デュビュッフェが提唱した芸術のカテゴリーで、現在は、知的障がいがある作り手、現代美術の文脈から離れた位置にある市井の作り手などによる、極めて革新的・独創的な美学をもつ絵画や造形作品を指すものとして広く知られています。2018年9月から2019年3月には、フランス・パリで「アール・ブリュット・ジャポネⅡ」展が開催され、日本の52組の作家、約640点の作品が一挙に紹介され、高い評価を受けました。

地域一帯型の「アール・ブリュット」イベント

当事業団も障がい者福祉事業の一環として、今年度から新たに「アール・ブリュット」の展覧会開催や普及活動に協力することにしました。その第一弾が、東京・中野区のJR中野駅周辺の4つの大型商店街一帯で「アール・ブリュット」の作品や作家の紹介・展示が行われるこのイベントです。

このイベントを企画している「社会福祉法人愛成会」（中野区）は、社会福祉の視点から「アール・ブリュット」の周知に主導的な役割を担ってきた団体の一つで、創作活動をする障がい者やアトリエなどを提供する施設の調査・発掘、各方面への紹介や周知活動、権利を含む作品の保護、関係団体への情報提供、さらに国内外の展覧会の企



JR 中野駅



画制作などを手がけています。このイベントは、地域社会を巻き込んで、オープンなスペースをフル活用して一般の誰もが作品や作家情報を見られるようにしようと、2011年に始められました。商店街組合など地元関係者の理解と積極的な協力を得て毎年開催しており、9回目となった今回も1月25日から3月3日までの長期展示となりました。

一日15万人の乗降客があるJR中野駅。北側改札口の入り口にまずはイベントの大きな横断幕が目につきます。ロータリーから駅北側に一直線に伸びる「中野サンモール商店街」は中野のメインストリートで、一日平均5万人が行き交います。都内でも有数のこの商店街に入ると、



中野サンモール



中野ブロードウェイ

アーケードの高い天井から縦1.8メートル、横3メートルの大きな作品のバナーが吊るされた「空中ギャラリー」が展開され、裏表で計14作品が多くの買い物客や通行人の目を楽ませるようになっています。

そのまま続く「中野ブロードウェイ商店街」は、アニメ

や漫画などの聖地として全国的に知られる屋外型の巨大ショッピングセンター。建物内の地下から4階まで全3か所ある階段と踊り場からなる「階段ギャラリー」と呼ばれるスペースに、作家を紹介するポスターなどが約60点展示されました。絵画で彩られ、華やかになった階段では途中で足を止めて作品を眺める人も目に付きました。この2つの商店街を通した長さは約500メートル。平日はもちろんですが、特に休日はごった返していました。

また、駅から南側の大通りに伸びる「中野南口駅前商店街」では、全23枚の作品バナーがアーケードを飾り、ロビー内で「アール・ブリュット」の作家の作品を常時展示している店舗もありました。この商店街では毎年、商店街の皆さんの手でバナーの設置・撤収作業を行って頂いているとのこと。

さらに、会期中の連動企画として、中野区の施設「なかのZERO」本館展示ギャラリーでは、東京都などの主催、愛成会の企画による「アール・ブリュット創造が示す個のチカラ」と題した展覧会が4日間開催されました。パリの展覧会への出展作家を含め、色とりどりの糸による立体造形作品、彫刻作品など、8人の作家の手による作品で、こちらは静かな落ち着いた空間の中でじっくりと、実物のもつ驚異的に細かい所作や質感を感じとってもらえるようになっていました。また、中野駅からこの会場に向かう「もみじ山共栄千光会」の商店街でも、作品・イベントを紹介するバナーが展示されました。



福井誠さんのポスター

多彩な作家たち

今回、展示・紹介された作家は「サンモール」の巨大バナーで14人、ポスターなど含め計40人以上に及び、作風は自由で多岐にわたります。

このイベントのメインのポスターに採用されたのは、

福井誠さんの作品。1982年生まれで長崎県の自宅で創作活動を行っています。多彩な色彩の動物や宇宙人のような生き物が画面いっぱいに描かれ、どこにも目が描き入れられているのが特徴です。統合失調症を発症し、幻覚症状で「だれかに見られている」という意識が離れなかったといい、こうした絵を描くことで気持ちが落ち着くのだそうです。

連動企画の「なかのZERO」での展覧会を代表する作品を制作したのが、1963年生まれのカズ・スズキさんです。鮮やかな何色もの太い糸を、織り機を使って独自の方法で縦横を複雑に織り込み、何か所も瘤のような形状をもった数メートルの細長くカラフルな糸のかたまりとして造形し、それを天井から何本もぶら下げたインスタレーション。まさに美しい現代アートといえる作品となっています。栃木県の施設で暮らし、週5日、決まった時間だけ工房に入ってもくもくと織り続けているそうで



カズ・スズキさんの作品

すが、一作に数カ月を要し、年間わずか数作という寡作の作家です。

このイベントは、今年も好評のうちに3月3日に終了しました。多くの人の目に留まり、興味をもつきっかけになった方も多いと思われます。こうした紹介イベントを通して「アール・ブリュット」は徐々に人々に知られ、認知されるようになってきています。

当事業団としても、「アール・ブリュット」の魅力や、創作を行う作家の情報などを広く伝え、普及・啓発に取り組む活動を積極的に支援していく考えです。

- 日程:** 平成31年1月25日(金)～3月3日(日)
- 場所:** 中野ブロードウェイ商店街・中野サンモール商店街・中野南口駅前商店街など
- 主催:** 中野アール・ブリュット実行委員会
- 協賛:** 中野ブロードウェイ商店街振興組合・中野サンモール商店街振興組合・中野南口駅前商店街・もみじ山共栄千光会・テレビ朝日福祉文化事業団(福)愛成会
- 後援:** 中野区

WarmBlue 2018

日程:平成30年4月1日(日)～8日(日)
場所:都内各所(渋谷・世田谷・東京タワー ほか)
主催:(一社)Get in touch

天皇杯 第46回 日本車いす バスケットボール選手権大会

日程:平成30年5月19日(土)～20日(日)
場所:武蔵野の森総合スポーツプラザ(東京都調布市)
主催:(一社)日本車いすバスケットボール連盟・
(公財)日本障がい者スポーツ協会・
(公財)日本バスケットボール協会
後援:スポーツ庁・東京都・調布市・
テレビ朝日福祉文化事業団 ほか



第34回 DPI日本会議全国集会 in 神奈川

日程:平成30年6月1日(金)～2日(土)
場所:横浜市技能文化会館(神奈川県横浜市)
主催:(特非)DPI日本会議
後援:内閣府・外務省・厚生労働省・国土交通省・
文部科学省・テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

2018 電動車椅子サッカー 交流大会 in ちば

日程:平成30年6月10日(日)
場所:八千代市市民体育館(千葉県八千代市)
主催:千葉県電動車椅子サッカー協会・八千代市サッカー協会
後援:千葉県・八千代市・テレビ朝日福祉文化事業団 ほか



第66回 全国盲人福祉施設大会

日程:平成30年6月21日(木)～22日(金)
場所:下関グランドホテル(山口県下関市)
主催:(福)日本盲人社会福祉施設協議会
後援:厚生労働省・山口県・下関市・テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

むさしの会サマーキャンプ

日程:平成30年8月4日(土)～5日(日)
場所:サンライズ九十九里(千葉県山武郡)
主催:むさしの会

日本車いすバスケットボール連盟 第15回 ジュニア選手育成講習会

日程:平成30年8月16日(木)～19日(日)
場所:兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター(兵庫県たつの市)
主催:(一社)日本車いすバスケットボール連盟
後援:テレビ朝日福祉文化事業団

チャレンジキャンプ2018

日程:平成30年8月21日(火)～24日(金)
場所:南相木村平休場キャンプサイト(長野県南佐久郡)
主催:児童養護施設カルテット
後援:テレビ朝日福祉文化事業団

第41回 わらじの会 夏合宿

日程:平成30年8月24日(金)～26日(日)
場所:鬼怒川秘極の湯 風(栃木県日光市)
主催:わらじの会

第35回 全国高校生の 手話によるスピーチコンテスト

日程:平成30年8月25日(土)
場所:有楽町朝日ホール(東京都千代田区)
主催:(一財)全日本ろうあ連盟・
(福)朝日新聞厚生文化事業団・(株)朝日新聞社
後援:厚生労働省・文部科学省・テレビ朝日福祉文化事業団 ほか



第43回 全日本ろう社会人 軟式野球選手権大会

日程:平成30年10月5日(金)～10月7日(日)
場所:万博記念公園野球場(大阪府吹田市)
主催:全日本ろう社会人軟式野球連盟
後援:文部科学省・厚生労働省・大阪府・
テレビ朝日福祉文化事業団 ほか



第56回 弘済学園 わたしたちが創る展

日程:平成30年12月3日(月)~5日(水)

会場:JR東京駅丸の内地下南口 動輪の広場(東京都千代田区)

主催:(公財)鉄道弘済会・(福)東京都社会福祉協議会

後援:テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

特別協力:(株)石原プロモーション



第33回 全日本 視覚障害者柔道大会

日程:平成30年12月23日(日)

場所:講道館(東京都文京区)

主催:(特非)日本視覚障害者柔道連盟

後援:スポーツ庁・厚生労働省・東京都・

全国盲学校長会・

テレビ朝日福祉文化事業団 ほか



第48回 全国身体障害者スキー大会 厚生労働大臣杯争奪

日程:平成31年3月8日(金)~9日(土)

場所:丸沼高原スキー場(群馬県利根郡)

主催:(一社)日本身体障害者スキー協会

後援:厚生労働省・スポーツ庁・群馬県・片品村・

テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

第34回 関東大会(身体障がい者スキー)

日程:平成31年3月22日(金)~24日(日)

場所:丸沼高原スキー場(群馬県利根郡)

主催:(一社)日本身体障害者スキー協会 ほか

後援:テレビ朝日福祉文化事業団

バディウォーク東京2019

日程:平成31年3月31日(日)

場所:代々木公園ケヤキ並木(東京都渋谷区)

主催:(特非)アクセプションズ

後援:東京都・渋谷区・

(公財)日本ダウン症協会・

テレビ朝日福祉文化事業団



高齢者施設訪問 「DJ OSSHY ディスコショー」

高齢者福祉の新しい事業として、DJ OSSHY さんを迎えた高齢者向けのディスコショーを開催しました。初会場となった高齢者総合福祉施設「神楽坂」(新宿区)では、集まった皆さんに懐かしい音楽に合わせて身体を動かしていただき、笑顔と元気をお届けすることができました。

ディスコの名曲から演歌、民謡まで

OSSHY(オッシー)こと押阪雅彦さんは、テレビ司会者の押阪忍さんの長男で、80年代ディスコ伝道師として知られています。オッシーさんは、2017年(平成29年)、慶應義塾大学の認知症プロジェクトの一環でディスコミュージックを用いて認知症患者に及ぼす効果・影響を探りたいとの依頼を受け、「高齢者ディスコ」をボランティアで開催しました。そこには懐かしのディスコミュージックに合わせて身体を揺らし、頬を薔薇色に輝かせているお年寄りの笑顔が溢れていました。

そこで2月6日、当事業団初の試みとして新宿区にある高齢者総合福祉施設「神楽坂」にオッシーさんをお迎えし、「DJ OSSHY ディスコショー」を開催しました。オッシーさんが拍手で迎えられ「押阪忍、栗原アヤ子の長男で…」と挨拶すると、ご両親と同世代の方々から「ほう!」と感嘆の声が上がりました。

スタートは70年代の大ヒット、ABBAの「ダンシングクイーン」。続いて「きよしのズンドコ節」、「ハッスル」、「東京ブギウギ」、「Night Fever」、「め組のひと」、「阿波踊り」、「北酒場」、「Y.M.C.A.」など、オッシーさんが選りすぐったこの日のための全15曲。上半身を動かす曲を中心につないだ60年代から80年代までの洋楽、邦楽、演歌、民謡とジャンルを超えた素晴らしいディスコミックスでした。

身体を動かして笑顔と元気に



「介護福祉士ダンサーのノンちゃん」の異名をとる野毛さんが曲に合わせて考案したオリジナルのゆっくりした振り付けも見事でした。「ダンシングクイーン」では両手で「大波小波」の曲線を描くように、スタイリッシュ



スの「愛がすべて(Can't Give You Anything ~But My Love~)」では「グーパー」など、アクションを交えながら明るく丁寧に教えます。「サタデーナイトフィーバー」の「腰に手を当てる指と腕を上にする」おなじみのポーズも、皆さん様になっていてビックリです。オッシーさんも曲を解説しながら笑顔でやさしく声をかけます。

最前列の女性が立って踊りだすと、もう一人の女性も前にでてきて踊りだしました。車椅子の方々も、うちわやボンボンを振りながら嬉々とした笑顔で楽しめます。この日は、特別養護老人ホームとデイサービスの方々50人が参加し、最高年齢は98歳。会場は熱気いっぱいで大盛況となりました。

最後の「三百六十五歩のマーチ」が終わったあとは、頬を紅潮させた笑顔が溢れていて、懐かしいディスコミュージックに合わせて身体を動かすことって素敵だなと感じました。今後、多くの方々に喜んでいただけるよう、この企画を発展させていきたいと思っています。



日程:平成31年2月6日(水)

場所:高齢者総合福祉施設「神楽坂」
(東京都新宿区)

主催:テレビ朝日福祉文化事業団

高齢者施設訪問

特別養護老人ホームやデイサービスセンターなど的高齢者施設をプロの歌手が訪問し、高齢者の皆さんに楽しい時間を過ごしていただくというのがこの高齢者施設訪問です。1987年（昭和62年）に施設訪問が始まってから、合計231回を数えました。

毎回それぞれの施設の皆さんが、曲に合わせて手拍子をしなが、ともに口ずさんだり。民謡から歌謡曲まで若かりし頃を懐かしみながら、笑顔あり、涙あり。ご協力いただいた歌手の方々も逆に元気をもらうような楽しい施設訪問となりました。



今年度は、こまどり姉妹さん、大津美子さん、原田直之さん、園まりさん、佳山明生さんがそれぞれ2回、大島花子さんが1回登場。東京都と神奈川県を中心に合計11の施設を訪問しました。

① 日程：平成30年4月27日（金）
場所：第2有隣ホーム（東京都世田谷区）
ゲスト：大津美子（歌手）

③ 日程：平成30年6月21日（木）
場所：カメラア藤沢SST（神奈川県藤沢市）
ゲスト：園まり（歌手）

⑤ 日程：平成30年8月10日（金）
場所：スマイルホーム西井堀（東京都葛飾区）
ゲスト：佳山明生（歌手）

⑦ 日程：平成30年10月17日（水）
場所：新町光陽苑（東京都北区）
ゲスト：こまどり姉妹（歌手）

⑨ 日程：平成30年12月7日（金）
場所：親の家（東京都武蔵野市）
ゲスト：佳山明生（歌手）

⑪ 日程：平成31年1月24日（木）
場所：コスモス老人福祉施設（東京都江東区）
ゲスト：原田直之（民謡歌手）

② 日程：平成30年5月22日（火）
場所：クレイン（東京都西東京市）
ゲスト：こまどり姉妹（歌手）

④ 日程：平成30年7月18日（水）
場所：ひらお苑（東京都稲城市）
ゲスト：原田直之（民謡歌手）

⑥ 日程：平成30年9月18日（火）
場所：上井草園（東京都杉並区）
ゲスト：大津美子（歌手）

⑧ 日程：平成30年11月21日（水）
場所：大野北誠心園（神奈川県相模原市）
ゲスト：園まり（歌手）

⑩ 日程：平成31年1月11日（金）
場所：友愛荘（東京都町田市）
ゲスト：大島花子（歌手）



参加施設の感想文（抜粋）

- 歌謡ショーの際には大変お世話になりました。利用者、地域の皆さま方大変喜ばれていました。有難うございます。
- 高齢者の皆さん大変喜んでおり感謝しております。また、機会がありましたらよろしくお願い致します。
- 入居者さまもご家族様も大変喜ばれるイベントとなりました。入居者様の笑顔がとても素敵でした。
- 施設に入居ならびに通所しているご利用者も大変喜んでおりました。また、機会がありましたら是非宜しくお願いいたします。
- ご利用者や地域の方たちも「とても良かった」「楽しかった」と大喜びでした。

- 職員、ご利用者ともに大変感謝しておりました。またのご機会がありました際は、是非とも宜しくお願い致します。

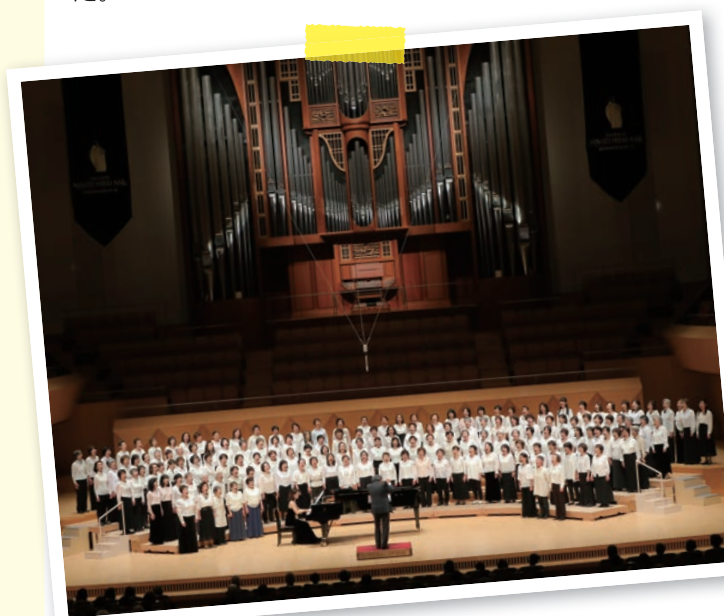


第10回 国際シニア合唱祭 「ゴールデンウェーブ in 横浜」

《ゴールデンエイジ》、この言葉には人生の豊かさ、優しさを育む響きがあり、大航海を無事乗り越えてきたような悠々とした風格を感じさせます。そのようなゴールデンエイジの仲間たちの輪を合唱という大きな響きにして横浜から世界へ発信しようと、2008年4月に横浜開港150周年記念行事の一環としてこの合唱祭が始まりました。今年は節目である第10回の開催となりました。

今回は旭川から沖縄・宮古島までの国内110団体、台湾から2団体、韓国から1団体の計113団体のほか、福島県から「相馬子どもコーラス」を招き、公募した10周年記念特別合唱団も加え、約4000名の合唱仲間が参加しました。

三日間とも一日を3ブロックに分け、一団体8分間の中で日頃の練習成果を発表。今回は100名を超える合唱団が3団体あったほか、踊りやピアノ以外の楽器を用いての演奏もあり、観客を大いに楽しませてくれました。皆さん生き生きと楽しそうに歌声を披露し、会場から盛んな拍手喝采をあびていました。



日程：平成30年4月15日（月）～17日（水）
場所：横浜みなとみらいホール（神奈川県横浜市）
主催：横浜みなとみらいホール・（特非）ゴールデンウェーブ
後援：神奈川県・横浜市 ほか
特別後援：（福）朝日新聞厚生文化事業団・テレビ朝日福祉文化事業団

中井貴恵 with 大人と子供のための読み聞かせの会 「絵本の世界へようこそ」

当事業団では、「地域における公益的な活動」として、女優・中井貴恵の「絵本の世界へようこそ」を開催しています。今年度も2回、東京都品川区と千葉県市川市で公演いたしました。

「絵本の世界へようこそ」は中井さんが朗読して、荒井素子さんが作曲し高槻真理子さんとともにピアノ演奏されるオ



仕掛け絵本

リジナル音楽と、平野知代子さんと宗佳代子さんが手作りして操作する大きな仕掛け絵本（パネルシアター）が合わさって、とても魅力的な絵本の世界を作り出す公演です。



オリジナル音楽

はだかの王さま

品川区では、学研ビル3階ホールで9月30日（日）に開催しました。当日は、台風接近中の不安定な天候にもかかわらず、近隣の小さなお子様連れの家族など175名の方がお越しくださいました。

朗読するのは、中井貴恵さんが再話を手掛けたアンデルセン童話の絵本「はだかの王さま」です。100万枚の服を持っている王さまが、「新しい服が欲しい」「めずらしい服が欲しい」と家来に言います。家来が頭を悩ませていると、「愚か者には見えない服」を作るといふ仕立て屋さんが現れます。

中井さんが話し始めると、ステージの上の大きな絵本も開きます。音楽に合わせて登場人物がイキイキと目の前で動き出します。

「トンカラ トンカラ トントントン♪」

会場みんなが絵本の世界に入りこみ、軽快な音楽とともにお話は進んでいきました。あっという間の約1時間の公演が終了すると大きな拍手の音が響きました。



おおきなかぶ

千葉県市川市文学ミュージアムでは、2月23日（土）に母子生活支援施設のお母さんと子どもたち、児童養護施設の子どもたち、近隣の子育て中の親子などをご招待して開催しました。会場のグリーンスタジオは市川市立「中央図書館」「こどもとしゃかん」と同じ建物内にあり、当日も本好きの子どもたちが沢山詰めかけてくださり、キャンセル待ちでも来場ができないほど。260席が満席となりました。

今回の演目は、作：トルストイ、訳：中井貴恵の「おおきなかぶ」です。とても大きく育ったかぶを、おじいさん、おばあさん、うし、ぶた、ねこ、めんどり、がちょう、カナリア、ネズミ、みんなで力を合わせて抜く、皆さんご存知のお話です。

「うんとこしょ、どっこいしょ！」

会場の声が一つになった時、絵本の世界の、大きな仕掛け絵本の上に大きなかぶが姿を現しました。

小一時間の短い時間でしたが、会場から出てくる子どもたちの表情は、絵本の世界のみんなと一緒に、かぶを抜いて満足した面持ちでした。



絵本の世界へようこそ

東京都品川区

日 程：平成30年9月30日（日）
場 所：学研ビル 3階ホール（東京都品川区）
主 催：（株）学研プラス
共 催：テレビ朝日福祉文化事業団
協 力：（特非）絵本文化推進協会

千葉県市川市

日 程：平成31年2月23日（土）
場 所：市川市文学ミュージアム・グリーンスタジオ（千葉県市川市）
主 催：（福）千葉県社会福祉協議会
千葉県児童福祉施設協議会
母子生活支援施設部会
共 催：テレビ朝日福祉文化事業団

その他の福祉事業・団体への支援

プロ野球 ヤクルトスワローズ戦 指定席チケットプレゼント

神宮球場で行われるプロ野球ヤクルトスワローズ戦の指定席チケットを、（福）東京都社会福祉協議会 東京善意銀行を通じて毎年プレゼントしています。今年度は、障がい者福祉施設や就労継続支援事業所、特別養護老人ホーム、放課後等デイサービス、母子生活支援施設など、東京都内の81の福祉施設などに、198枚をプレゼントしました。

第3回 港区地域福祉フォーラム 出展

日程：平成30年10月20日（土）～21日（日）

場所：高輪区民センター（東京都港区）

主催：（福）港区社会福祉協議会

第67回 東京都社会福祉大会

日程：平成31年2月4日（月）

場所：東京都庁第一本庁舎 5階 大会議場（東京都新宿区）

主催：東京都、（福）東京都社会福祉協議会、（福）東京都共同募金会

協賛：テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

テレビ朝日 ドラえもん募金 西日本豪雨災害 被災者支援



テレビ朝日では、西日本を中心とした豪雨の被災者を支援するため「ドラえもん募金」を実施いたしました（2018年7月9日～7月22日）。

お寄せいただいた募金にテレビ朝日からの寄付金などを加えた総額は8550万円となりました。確実・有効に被災者支援にあてられるよう、テレビ朝日福祉文化事業団を通じて以下の通り、寄託を行いました。

寄託先

岡山県
2850万円

広島県
2850万円

愛媛県
2850万円

計 8550万円

平成30年度事業一覧

	事業名	名義
児童福祉	第18回 児童養護施設で生活する高校生の海外生活体験の旅	主催・助成
	第6回 農村ホームステイ体験の旅 in 遠野	主催・助成
	第7回 子どもキラット！楽演祭	主催・助成
	テレビ朝日見学と特別講座	主催・助成
	江戸っ子杯争奪 東京都児童福祉施設競技大会2018 野球の部	共催・助成
	児童福祉施設職員のためのワークショップ	主催名義・助成
	第60回記念 慈彩会展	後援・助成
	第63回 全国里親大会 石川大会	共催・助成
	第64回 関東甲信越静里親協議会 静岡市大会	後援・助成
	こどもの国 お正月行事 「ジャンボカルタとり大会」と「どんど焼き」	後援・助成
	日本児童養護実践学会 第11回研究大会	後援名義
	「憩いの家」資金バザー	後援名義
母子福祉	母子のためのテレビ朝日見学体験ツアー2018	主催・助成
障がい者福祉	五感で楽しむ音楽会 2018 ～LIVE TOGETHER CONCERT～	主催・助成
	第41回 車いすバスケットボール秋季大会	共催・助成
	天皇杯 第46回 日本車いすバスケットボール選手権大会	後援・助成
	日本車いすバスケットボール連盟 第15回 ジュニア選手育成講習会	後援・助成
	第42回 ハンディスキー全国親善大会	共催・助成
	第48回 全国身体障害者スキー大会 厚生労働大臣杯争奪	後援・助成
	第34回 関東大会(身体障がい者スキー)	後援・助成
	NAKANNO街中まるごと美術館！ アール・ブリュット～人の無限の創造力を探求する2019～	協賛・助成
	第33回 全日本視覚障害者柔道大会	後援・助成
	WarmBlue 2018	助成
	2018電動車椅子サッカー交流大会 in ちば	後援・助成
	第43回 全日本ろう社会人軟式野球選手権大会	後援・助成
	第34回 DPI日本会議全国集会 in 神奈川	後援・助成
	第35回 全国高校生の手話によるスピーチコンテスト	後援・助成
	パディウォーク東京2019	後援・助成
	むさしの会サマーキャンプ	助成
	チャレンジキャンプ2018	後援・助成
	第41回 わらじの会 夏合宿	助成
	第56回 弘済学園 わたしたちが創る展	後援名義
	第66回 全国盲人福祉施設大会	後援名義
	障がい者支援施設 青梅学園 園舎建て替え事業	助成
高齢者福祉	高齢者施設訪問	主催・助成
	第10回 国際シニア合唱祭「ゴールデンウェーブ in 横浜」	特別後援・助成
地域公益活動	中井貴恵 with 大人と子供のための読み聞かせの会「絵本の世界へようこそ」	共催・助成
その他	プロ野球ヤクルトスワローズ戦 指定席チケットプレゼント	助成
	第3回 港区地域社会福祉フォーラム	出展
	第67回 東京都社会福祉大会	協賛名義

平成30年度会計報告

事業活動計算書 自:平成30年4月1日 至:平成31年3月31日

(単位:円)

勘定科目			当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A) - (B)
サービス活動増減の部	収益	寄附金収益	29,461,538	28,123,776	1,337,762
		事業収益	0	0	0
		その他の収益	0	0	0
		サービス活動収益計(1)	29,461,538	28,123,776	1,337,762
	費用	人件費	8,836,161	1,670,944	7,165,217
		事業費	39,084,114	55,517,593	-16,433,479
		児童福祉費	13,890,745	16,326,146	-2,435,401
		母子福祉費	1,190,904	862,140	328,764
		障がい者福祉費	15,518,192	5,266,522	10,251,670
		高齢者福祉費	4,199,281	5,371,564	-1,172,283
		その他事業費	4,284,992	27,691,221	-23,406,229
		事務費	1,382,416	1,738,266	-355,850
		サービス活動費用計(2)	49,302,691	58,926,803	-9,624,112
サービス活動増減差額(3) = (1) - (2)		-19,841,153	-30,803,027	10,961,874	
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	292,289	1,939,892	-1,647,603
		サービス活動外収益計(4)	292,289	1,939,892	-1,647,603
	費用				
		サービス活動外費用計(5)	0	0	0
サービス活動外増減差額(6) = (4) - (5)		292,289	1,939,892	-1,647,603	
経常増減差額(7) = (3) + (6)			-19,548,864	-28,863,135	9,314,271
特別増減の部	収益				
		特別収益計(8)	0	0	0
	費用				
		特別費用計(9)	0	0	0
	特別増減差額(10) = (8) - (9)		0	0	0
当期活動増減差額(11) = (7) + (10)			-19,548,864	-28,863,135	9,314,271
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		19,297,705	38,160,840	-18,863,135
	当期末繰越活動増減差額(13) = (11) + (12)		-251,159	9,297,705	-9,548,864
	基本金取崩額(14)		0	0	0
	基金取崩額(15)		15,000,000	10,000,000	5,000,000
	その他の積立金取崩額(16)		0	0	0
	その他の積立金積立額(17)		0	0	0
	次期繰越活動増減差額(18) = (13) + (14) + (15) + (16) - (17)		14,748,841	19,297,705	-4,548,864

平成30年度会計報告

貸借対照表 平成31年3月31日現在

(単位:円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	15,088,249	31,104,210	-16,015,961	流動負債	339,408	463,145	-123,737
現金預金	14,867,169	30,847,289	-15,980,120	事業未払金	216,158	336,631	-120,473
仮払金	221,080	256,921	-35,841	預り金	0	4,084	-4,084
有価証券			0	職員預り金	123,250	122,430	820
固定資産	956,966,480	960,000,000	-3,033,520	固定負債	11,966,480	11,343,360	623,120
基本財産	100,000,000	100,000,000	0	退職給付引当金	11,966,480	11,343,360	623,120
決済性 普通預金	100,000,000	100,000,000	0	負債の部合計	12,305,888	11,806,505	499,383
				純資産の部			
				基本金	100,000,000	100,000,000	0
その他の 固定資産	856,966,480	860,000,000	-3,033,520	基本財産	100,000,000	100,000,000	0
基金 積立資産	845,000,000	860,000,000	-15,000,000	基金	845,000,000	860,000,000	-15,000,000
退職給付 引当資産	11,966,480	0	11,966,480	助成事業基金	845,000,000	860,000,000	-15,000,000
				国庫補助金等 特別積立金	0	0	0
				その他の積立金	0	0	0
				次期繰越活動 増減差額	14,748,841	19,297,705	-4,548,864
				次期繰越活動 増減差額 (うち当期活動 増減差額)	14,748,841	19,297,705	-4,548,864
					-19,548,864	-28,863,135	9,314,271
				純資産の部合計	959,748,841	979,297,705	-19,548,864
資産の部合計	972,054,729	991,104,210	-19,049,481	負債及び 純資産の部合計	972,054,729	991,104,210	-19,049,481

平成30年度
ご寄付者の報告

企業・団体・個人の皆さまからご寄付をいただきました。心からお礼申し上げます。

寄付金合計 29,461,538円

一般寄付（敬称略）

個人…2人

企業・団体…40社・団体

(公社)麻布法人会ゴルフ同好会、ALSOK東京(株)、(株)伊佐梅、(株)大塚商会、(株)関電工、(株)コマデン、
(株)シービーエス、城南質屋協同組合、新日本プロレスリング(株)、ダイダン(株)、
(株)台東サービス、(株)竹中工務店、(株)テルミック、(株)東京美術、東京六本木ライオンズクラブ、
(株)日本歯科衛生協会、(公財)原田積善会、富士ゼロックス(株)、富士通(株)、(株)ミヤギ、
横浜エレベータ(株)東京支店
(株)テレビ朝日、(株)ビーエス朝日、(株)シーエス・ワンテン、
テレビ朝日映像(株)、(株)テレビ朝日サービス、(株)テレビ朝日ミュージック、
(株)東京サウンド・プロダクション、(株)文化工房、(株)フレックス、シンエイ動画(株)、
(株)放送技術社、(株)テイクシステムズ、(株)トラストネットワーク、(株)テレビ朝日クリエイト、
(株)テレビ朝日アスク、(株)テレビ朝日ベスト ほか

物資などのご協力 3社

(株)テレビ朝日、東京六本木ライオンズクラブ ほか

テレビ朝日福祉文化事業団

役員・評議員

(平成31年3月31日現在)

役職名	氏名	職業
理事長	吉田 慎一	株式会社テレビ朝日ホールディングス 代表取締役社長
副理事長	香山 敬三	株式会社テレビ朝日 取締役経理局長
理事	高橋 利一	社会福祉法人至誠学舎立川至誠学園 相談役、名誉学園長 法政大学名誉教授
理事	石野 清治	社会福祉法人同愛記念病院財団 顧問
理事	山崎 哲男	弁護士 日比谷見附法律事務所 東京六本木ライオンズクラブ
理事	三浦 公嗣	医学博士 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター教授
評議員	宮沢 成実	元社会福祉法人東京都社会福祉協議会
評議員	岩崎 浩三	特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会 理事
評議員	根本 保	元株式会社ビーエス朝日 常勤監査役
評議員	岸田 晟	一般社団法人日本民生文化協会 会長
評議員	東 ちづる	女優 一般社団法人 Get in touch 理事長
評議員	椎橋 敏	公益財団法人原田積善会 顧問
評議員	池上 和子	赤坂アイ心理臨床センター代表 学術博士 東北福祉大学特任准教授
評議員	是永 一好	社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団 事務局長
監事	平田 和子	税理士 平田和子税理士事務所
監事	若穂井 透	弁護士 元日本社会事業大学教授

[ご寄付のお願い]

テレビ朝日福祉文化事業団の活動は、皆さまからのご寄付によって支えられています。
当事業団へのご寄付は、特定寄付金となります。
個人の場合は所得税の寄付金控除として、法人の場合は法人税の損金算入の対象となります。
ご寄付は、当事業団が実施する児童福祉、母子福祉、障がい者福祉、高齢者福祉ほか、
さまざまな社会福祉事業へ充てさせていただきます。
なお、ご寄付の方法は下記のとおりです。

記

- 郵便振替
口座番号 00110-6-761778
口座名(加入者名) 「こころの樹」
※通信欄に「寄付金」とご記入ください。
- 現金書留で郵送
〒106-8001 東京都港区六本木6-9-1 森タワー16階
テレビ朝日福祉文化事業団 宛
※連絡先を同封してください。領収書をお送りいたします。
- 銀行振込希望の方は、事務局へご連絡ください。
電話 03-6406-2195

テレビ朝日福祉文化事業団 事業報告
平成30年度(2018年度)
年報 こころの樹
発行人 杉村全陽

令和元年(2019年)6月30 日発行
社会福祉法人 テレビ朝日福祉文化事業団
〒106-8001 東京都港区六本木6-9-1 森タワー16階
TEL 03-6406-2195 FAX 03-3405-3797
<http://www.tv-asahi.co.jp/fukushi/>
E-mail: fukushi@tv-asahi.co.jp

※文中の役職等は、その時点での表記といたしました。
※無断転載は禁じます。
©2019 tv-asahi welfare foundation

児童福祉

母子福祉

障がい者福祉

高齢者福祉

その他の福祉

その他